



津倉世雄翁の敬神記念碑

4 / 8

4月8日(土)に開かれた「みんなと倶楽部 掛塚」の月例会はあいにくの小雨となりましたが、知っているようで意外と知らない地元史や文化をもっと知ろうと、掛塚の町歩きを催行。貴船神社に集合し、ぐるりと歩いて回りました。

貴船神社では奉納された手水鉢や鳥居、常夜燈、狛犬などを眺め、北東隅に建てられている津倉世雄翁の「敬神記念碑」や「掛塚湊廻船之碑」について、名倉慎一郎さんから説明を受けました。

さらに、旧掛塚郵便局や伊豆石で造られた石塀や石蔵、かつて「帝国館」があった場所などを巡ること約2時間。今では道路の下に隠れてしまっていますが、かつては水路が玄関前まで張り巡らされ、物資の運搬に利用されていた水運の町だったことを今さらながらに再認識。水路に架けられていた橋があったと思われる場所なども知ることができました。

水路跡や石積みの上に建てられた蔵の数々、海が荒れず穏やかに風のように願って植えられたナギの木―これらの郷土遺産が、歳月の経過とともに忘れられてしまっただけでなく、若者たちにも生まれ育った故郷をどこよりも好きになってもうたうためには、分かりやすい案内や解説の看板の設置も必要



記事 齊藤朋之

### 掛塚巡り、掛塚の街を歩いて探索してきました。

かも知れません。

「掛塚まつり」の継承はもちろん、繁栄した時代の掛塚を象徴する旧津倉家住宅の活用とともに、街角に残る湊町の面影を郷土の大切な遺産として残していくことも私たちが次の世代に対しては欠かせない責任の1つだと感じました。

# みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka

## 第5号

**P1** 掛塚巡り、掛塚の街を歩いて探索してきました。

**P2** 旧津倉邸探訪其の五  
西小学生の感想 其の一

**P3** ちよといっけ？  
西藤茂代さん (中町)  
萬谷邸ひな祭り&健康体操

**P4** ちよといっけ？  
佐々木昭光さん(新町)  
懐かしいら

### 佐々木昭光さん 78歳(新町)



**Q** 子供の頃の遊びについていろいろ教えてください。

昔はおもて(屋外でちゃんばらごっこをしたり、ビー玉やカッチン玉、パン(メンコ)、コマ回しとかね、あと鉄砲や巢(秘密基地)を作って遊んだだよ。

水鉄砲は孟宗竹(もうそうだけ)で作った。杉の玉の鉄砲は竹の先と反対側に杉の実を仕込んで細い竹に布を巻いて押しからかすんだ。上級生に教わったり見よう見まねで作って遠くに飛ばす競争してね。

巢(秘密基地)は竜泉寺の藪の中とか、木の上や下にも作っただよ。大工さんが捨てた木端切れを拾ってきて木と木の間に縄で縛って、その周りを草や毛布の古いで囲って、学校から帰るとその中に入って遊んだり焼き芋を食べたりしてさ。(笑)

物が無くても自分たちで工夫をするから知恵もつくし仲間も出来る、それが楽しいという面白さというか、おかげで物づくりの器用さが養われたね。

ケンカになる事もあったけど各町内の番長みたいな人が「まーまー」と仲裁してくれたから今のようにならなかって事はないよ。

**Q** 当時(戦後)の生活や様子を教えてください。

俺は5歳の時(昭和19年)から親に自分の事は自分でやるように言われてた。それはいつ戦災孤児になるかもしれないから。学校から帰ると家の手伝いがいっぱいあって、井戸がある家に水をもらいに行ったり、大水が出るとコアシ(薪)を拾いに行ったり。昔は薪をくべてヘッツイ(かまど)で飯を炊いたもんだ。イナゴや蛭やどじょう、フナも捕まえて食料にしてたよ。そういうのを食べるとたもんで丈夫に育ったんじゃないかと思ってたよ。

文房具は配給で数が少ないから学校でくじ引きして当たると鉛筆や消しゴムを買えただよ。電気が来ない日もあったけど電化製品が無いからなんにも困らんかった。(笑)

**Q** 現役でされているお仕事、「人にやさしい物づくり」とは？物づくりは奥が深いだよ、「こういうの出来んかいや」と

て言われた時に、「それじゃあ」って考える。何年か掛かるけど不便している人に優しい方がいいじゃん。お金をがんで儲ける事じゃなく、それがあって困り事がなくなると喜んでもらえる方がいい。時々お客様から「これで安心です。」とか手紙が来たりする、そう云うのが物づくりの嬉しいところだね。

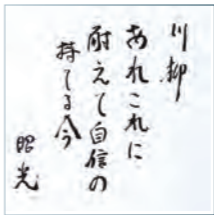
**Q** 以前生死を分ける大きな手術をされたそうですね。

そう、15年前に助けてもらった命だもんで先生(医師)に感謝しながら毎日丁寧に生きてるよ。中国のことわざで「人間万事塞翁が馬」と言う言葉がある。日本の言葉で言うと、楽あれば苦あり。人間なんか一生の内でも一年の内でも繰り返しの中でいい時も悪い時も縮んで詰めなくたって行くのだから、調子悪いからって萎縮して諦めなくともいいし、いいからと言って有頂天になつてのぼせるのもいかん。自分で歩いたり喋ったり、地味なことでも幸せだし上を見ればきりが無いもんで。生きてるだけで儲けものだよ。

今、二万八千日生きてるから、三万日を目標に元気で頑張ってると思う。



国民学校の通信簿



波乱万丈な人生を前向きに歩まれた強さを感じられる一句



6年生の修学旅行～三保の松原にて

### 懐かしいら

昔懐かしいモノを不定期で紹介していきます。

第一回は、かつて男子なら誰もが夢中になって技を磨いたメンコ(パン・パンキー)とコマ。ルールや遊び方もみんな考えて技を競いました。



メンコ(パン、パンキー)



コマ

砂町の「くりものや(須田さん)」で売ってたんだったよ。



ヒモを巻いて引の張って回すよ。

年配の方は「パン」って言っていたよ。50代は「パンキー」って言っていたよ。

相手のメンコをひっくり返したり、自分のを相手の下に滑り込ませたら相手のメンコをもらうんだよ。



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合

### お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください！

☎ 0538-66-4775 (名倉)

# 座敷の襖絵

## 座敷の襖絵

南側の座敷と奥座敷とを仕切る4枚の襖には、正面側に福田半香(ふくだはんこう・1804〜64)、背面には平井頭齋(ひらいけんさい・1802〜56)が描いた山水画が使われています。

福田半香と平井頭齋は、ともに渡辺華山の門弟で「華山十哲」と呼ばれる画家。半香は現在の磐田市見付、頭齋は現在の牧之原市に生まれた地元の画家です。

10畳の座敷の長い側に4枚立の襖ですから、1枚の幅は2間半。鴨居の上にはスッキリとした胡麻柄(ごまがら)の組子(木)欄間から隣室の光が漏れて来ます。いずれも、磐田市指定の文化財。

半香の襖絵の脇などには、浜松市出身の山下青厓やましたせいがい・1858〜1942)が描いた、水墨画が襖を飾っているほか、2階には短冊や扇面などを貼った貼交(はりませ)の襖もあり、これらの襖絵からは、当時の遠州画壇のレベルの高さと津倉家当主・津倉勘六氏の交友の広さを窺い知ることが出来ます。

### 青厓が描いた菊と蟹

座敷にある山下青厓の襖絵の1枚には、「菊と蟹」とが描かれています。風景が描かれている他の絵とは違い唐突とも思われる取り合わせですが、「菊と蟹」の絵柄には還暦を祝う意味が含まれているのです。

菊は「華」、蟹は「甲羅」ですから、合せて「華甲」。華甲の「華」を分解すると、6つの「十」と1つの「一」になり、合計すれば数えて61歳を表す「61」になります。

「甲」は「甲子(きのえね)」で、干支(十干十二支)の一番目。やはり、還暦と同じく数え年で61歳を表すため「華甲」とは、還暦の吉祥を示す縁起の良い絵柄となるのです。

# 旧津倉邸探訪◆◆◆其の五

青厓の家、笠井町の山下家は津倉家の親戚に当たるとのことですから、おそらく、津倉家の当主、勘六の還暦祝い贈った絵を襖絵として残したのだと思います。

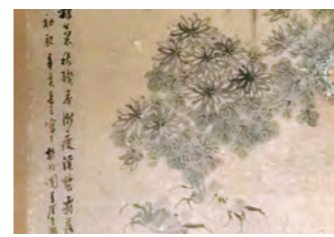
記事 斉藤朋之



福田半香の襖絵



平井頭齋の襖絵



山下青厓の襖絵



貼り混ぜの襖

# ちよつといーけ？

温故知新！掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、中町の西藤茂代さんと新町の佐々木昭光さんをインタビュー。

## 西藤茂代さん 79歳(中町)



### Q 掛川屋さんに嫁いできた頃(昭和33年)の事を教えてください。

当時は魚を売る以外にもかつお節の製造や仕出しもしていたんですよ。(仕出しは他の魚屋さんでもしていました) 冠婚葬祭は自宅で作る時代でしたから仕出し料理を作って配達して、縁起物のかつお節は結婚式の引き出物に使っていただきました。あの頃は各家庭でかつお節を削っていたからお店で売ったり、お歳暮にも使っていたことができましたね。カツオが獲れる時期になると店を閉めてから作業小屋でカツオを捌いて大鍋で煮て、それから身を崩さないように毛抜きで中骨を抜いて・・・。かつお節造りはたたくさんの工程があって梅雨の頃から暮れまで半年程かけて作っていたんです。他にも年末はお正月用に鯛を焼いたり、土用の丑には濡れ手ぬぐいを首に巻いて鰻を蒲焼にして売ったの。若かったから乗り切れたのね。

### Q 魚屋さんの仕事は辛くありませんでしたか？

夜なべ仕事の時には何もいらぬから「とにかく寝たい」と思いましたね。(笑)でもそれが家業だと思えばやるしかないという時代でしたからね。嫁ぐ前は魚の捌き方なんて何も知らずお義母さんや主人に教わって、あとは見よう見まねで数をやるうちに覚ええました。12年前に亡くなった主人は魚屋気質で口が悪い人でしたけど、とてもお客様想いの人でした。お客様に愛され喜んでいただいでそれを励みに頑張れたんだと思います。

### Q 小学生の見守りボランティアをされていますね。

お店を辞めてから「さあこれから何をしようか」と考えた時に小学生の見守りの話があってお引き受けしました。朝は子供たちと一緒に通学路を歩き西光寺の裏を通ってトンネルを抜けてさらに西を回って伊藤自転車(旧)さんの横断歩道を渡るまで見届けます。午後は貴船神社の裏あたりで

低学年の子どもたちを迎えています。神社やお寺の裏とトンネルは人通りもなく危ないから。

### Q お稲荷様(中町)の世話役もされているとか？

お稲荷さんは毎朝扉を開けて水を供えお花のお水も変えて、夕方に扉を閉めに行くんです。毎月10日のお祭りにはお赤飯を炊いて供えています。年に一度の大きなお祭りは中町の自治会がやり、お稲荷様に拜んでもらいその後には懇親会も開かれるんです。お稲荷様は中町の人だけではなくて通るたびに拜んでくれる人もいます。

### Q ボランティアは大変ではないですか？

今月から貴船神社の落ち葉を集める奉仕活動にも参加することにしたの。(本町・中町・田町・大町の老人会が毎月末に行っている) お店をやっている時には忙しくてそういうことには何も参加できなかったから、私に出来る事で地域の役に立つことが出来ればいいなと思っています。

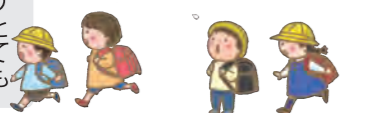


かつお節削り器



中町 お稲荷さま

夕方買い物に出かけると対面式の店内は活気がありとても賑やかでした。店主の晴さん・茂代さんはその日お釣めの魚や、その魚の美味しい食べ方なども教えてくれるので我が家でもとても頼りにしていました。茂代さんがお義母さまから受け継いだという「掛川屋特製」かつおの塩辛・コノシロの酢メがとても美味しくて、その味は今でも忘れられません。



## 郷土学習に参加した竜洋西小生の感想

津倉邸へ行ったときに津倉邸のことを教えてくれてありがとうございました。ほかが一番心のこっているのは、ほとんどが木でできているということ、ぎもんに思ったのは、どうして木でできているのひびびとかがあまりなかったのかということ。あと、かけつかのことで分かったこともありました。それはかけつかには、うでのいいだいくさんがいっぱいいたということです。

3年2組 幸田羽流

いろいろ教えてくれてありがとうございました。

3年2組 大石ゆうま

この前はありがとうございました。昔の炭火アイロンや火ばちなど、昔の道具は電気が少ないと分かりました。つくらていでは、上がえらく下がはたらく人ということもしりました。

3年3組 影山直哉

ろうかにはさくらの木、天じょうはすぎで、とても高いと分かりました。4枚のふすまはとも有名なのが書いたと分かりました。そしてそのねだんは、つくらていが買える高さだとしりました。1さんのおかげでいろいろ知りました。ありがとうございました。

## 葛谷邸ひな祭り&健康体操

3月1日、毎週水曜日に近所の方が集まり健康体操をしている砂町の関さん宅でのひな祭り&健康体操にお邪魔しました。玄関からすぐの部屋には雛人形と吊るし雛が素敵に飾られ、奥の部屋には会場のセッティングから美味しそうな手作り料理まで、近所の皆さんと協力して準備されていました。

会が始まると楽しくお喋りしながら食事を楽しみ、食事の後はひな祭りの唄とその替え歌を歌い(頭の体操になるそうです)、最後に健康体操をします。お手本のDVDを観ながら椅子に座っての体操でしたがこれがなかなかハードでした・・・。平均年齢80歳という皆さんでしたが、恥ずかしながら私が一番のヘタレでした。(汗)

年齢もバラバラで普段はそれぞれに興味やスポーツ、習い事などを楽しんでいる皆さんですが、こういったイベントを企画して実行してくれる人や場所を提供してもらえました。掛塚の町は昔と違い外に出て人の姿を見かける事が殆どありません。

他人とのかわりを持つ場を作り笑顔で楽しく過ごす事が健康長寿のまちづくりには不可欠なのだ改めて感じました。

